

科目区分・分類	専門・講義	対象学科名・学年	環境都市1年	科目コード	19500191
科目名	土木工学概論 Introduction to Civil Engineering				
担当教員	環境都市工学科全教員				
単位数(時間数)	必修 前期 1単位 (30時間)	学習・教育目標との対応	(B-2)		
授業の目的と概要	土木工学はこれまで市民の生活基盤を充実させる役割を果たしてきているが、環境共生型社会の要請に応えられる資質を求められる時代を迎えた。専門学科の全教員から早い段階で社会と工学の関わりを学ぶことにより、5年一貫の技術者教育をより効果的に享受できる態勢づくりを整えることを目的とする。				
先修科目					
後修科目					
備考	教科書は用いず、各テーマの担当教員が作成した資料により授業が進められる。				
	授業項目	時間	内容		
1	ガイダンス(遠藤)	2	土木工学概論の授業内容を理解する。		
2	災害と土木工学(古本)	2	災害を防止することの重要性を説明できる。		
3	水とつきあう(浅野)	2	土木工学と水との関わりを説明できる。		
4	大地とつきあう(松下)	2	土木工学と土の関わりを説明できる。		
5	土木と建築の構造力学(永藤)	2	構造物の構築方法を説明できる。		
6	構造物と材料(遠藤)	2	構造物を造る際に使用する種々な材料を説明できる。		
7	構造物の長寿命化(奥山)	2	構造物長寿命化の目的と現状を説明できる。		
8	土木工学における計画とは(轟)	2	土木工学における計画の重要性を説明できる。		
9	環境都市におけるまちづくり(柳澤)	2	生活基盤と都市計画との関わりが説明できる。		
10	交通とまっつくり(柳澤)	2	交通計画を考慮したまちづくりを説明できる。		
11	都市・建築空間の音環境(西川)	2	空間の音に関する環境を説明できる。		
12	CADの現状(永藤)	2	CADの現状を説明できる。		
13	構造物を造る(遠藤)	2	構造物を造る過程を説明できる。		
14	化学物質の環境挙動を探る(酒井)	2	化学物質が環境に与える影響を説明できる。		
15	環境共生型社会とは(松岡)	2	環境と共生するうえで必要な社会のあり方を説明できる。		
学習・教育目標を達成するために身に付けるべき内容	建設工学と社会基盤整備、環境と建設工学、社会基盤整備と環境、の関係を説明できること。これらの内容を満足することで、(B-2)の達成とする。				
成績評価	授業毎に課されるレポートの合計100点満点で(B-2)を評価する。レポートの重みは同じとし、全てのレポートにおいて6割以上の評価が得られたものを、本科目の合格者とする。なお、いずれか1つのレポートでも6割未満の評価となったものに対しては、本科目の成績を59点以下とする。				
教材	各テーマの担当教員が作成する資料。				
オフィスアワー	毎週水曜日16:00~17:00, 環境都市工学科, 担当教員室。				